

①基本事項

計画コード		25001	事業名		水道施設専用通信デジタル化事業						
事業手法		☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他()									
施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上				予算科目	会計	11:水道事業会計			
	基本施策	03:上下水道の充実					款	資1:資本的支出			
	施策の方向	01:安全でおいしい水の安定供給					項	01:建設改良費			
	重点プロジェクト	03:「しなやか田園都市」プロジェクト					目	01:施設費			
事業期間		R7年度	～	R10年度	主な根拠法令等		水道法、工業用水道事業法				

②事業概要(P)

事業の必要性(経緯・背景等)		事業の対象(誰に、何に対して)		事業の目的(どのような状態にしたいのか)		事業の内容(どのような取組を行うのか)			
中央監視施設と各施設間等の専用通信回線が通信事業者(西日本電信電話株式会社)により、アナログ回線から光回線に切替えられる計画であるため、中央監視施設や各施設において、光回線に対応したデジタル通信ができるよう通信機器の更新が必要となった。		上水道及び工業用水道の施設		専用通信回線が光回線となっても、現状と変わらず各施設の異常等を中央監視施設にいち早く伝送し、迅速な対応ができる。また、デジタル化により、通信の高速化・安定化が図られるとともに、DX化による利便性の向上や強靱化が可能となる。		中央監視施設や各施設において、通信機器をデジタル通信ができるものに更新する。 【上水道】 ・取水井 N=2施設 ・水源地他 N=20施設 ・配水池 N=11施設 【工業用水道】 ・取水井 N=2施設 ・水源地 N=1施設 ・配水池他 N=3施設			

③事業の実施状況(P・D)

年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		
事業計画								専用通信機器更新工事 ・第2水源系 ・第3水源系 ・第4水源系		
活動実績 (計画通り実施できたか)								関連工事を実施する通信事業者(西日本電信電話株式会社)における専用通信回路の切替工事の遅延により、専用通信機器更新工事を年度内に完了できず、翌年度へ繰り越して実施することとなった。 【令和8年3月末時点の令和7年度事業費に対する進捗率】 専用通信機器更新工事 75%		
計画額	予算額	事業費							79,000千円	0千円
		国・県支出金								
		地方債								
		その他								
		一般財源							79,000千円	0千円
決算額	事業費									0千円
		国・県支出金								
		地方債								
		その他								
		一般財源								0千円
①期間内計画額(R4-7)		79,000千円		②期間外計画額(R8-)		185,000千円		①+②総計画額		264,000千円

(令和7年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	79,000千円
次年度への繰越額	79,000千円

④ 指標 (C)	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	水道施設専用通信デジタル化事業の進捗率	実施済み施設数／総施設数	活動	%	計画値				18
					実績値				0
					計画値				
					実績値				
					計画値				
					実績値				

⑤ 成果 (C)	判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
	B	本事業は4か年計画で通信機器の更新を進めるものであるが、通信事業者の専用通信回路の切替工事が遅延により初年度の更新工事を翌年度へ繰り越す結果となった。令和7年度末時点では工事は着実に進捗しており、デジタル化に向け事業を推進している。なお、令和7年度分(繰越分を含む)の工事完了時には、全39施設のうち、当初は7施設の更新完了を見込んでいたところ、8施設の更新が完了する予定であり、計画を上回る進捗となる見込みである。
まずまず成果を得た		

事業の対象	事業の目的
上水道及び工業用水道の施設	専用通信回線が光回線となっても、現状と変わらず各施設の異常等を中央監視施設にいち早く伝送し、迅速な対応ができる。また、デジタル化により、通信の高速化・安定化が図られるとともに、DX化による利便性の向上や強靱化が可能となる。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	今後は通信事業者との連携をより強化するとともに、工程管理を徹底し、事業の遅延を防ぎながら、計画期間内で完了できるよう取り組む必要がある。

⑦ 事業の展開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和8年度で対応する(した)もの	令和9年度以降で対応するもの
	令和7年度の繰越工事を確実に完成させ、令和8年度の通信機器更新工事(野登水源系及び白川配水池系ほか)を計画どおり実施し、事業の着実な進捗を図る。	通信機器更新工事(関地区水源系及び第五水源系ほか)を計画どおり実施し、計画最終年度である令和10年度までに専用通信のデジタル化を完了させる。

(履歴)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定				B
事業展開				継続(現状維持)

1次評価者	上下水道部 上水道課 上水道工務GL 岡本 隆之
最終評価者	上下水道部 上水道課長 高沢 直